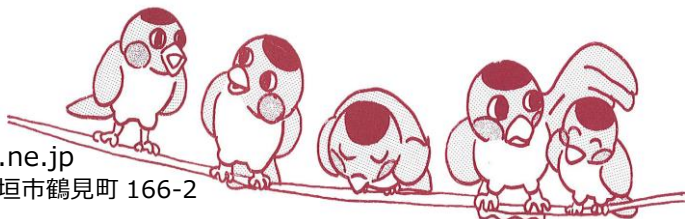


道場 Tel 74 - 7331

道場 Fax 73 - 2225

携帯メール sasaki-5025-sihan@sofutbank.ne.jp

電話 090-3254-3976 〒503-0805 大垣市鶴見町 166-2



名古屋に向かう電車、大垣駅でお父さんと子供が急いでかけ込んできた。父親は40歳ぐらいで、なんとも気のよさそうな会社員ふう。子どもは小学5・6年生といったところで、父親は本を見せながら子どもに話しかけていた。仲の良い親子に見える。しかし、何気なく見たその子どもの顔は、ふて腐れたような、ゆううつそうな目で父親に対していた。それでも父親は本を指差し話しかけていた。すると子どもが「もう死んだ」ときつい口調で言った。私は自分の耳を疑ったが、確かにこの子どもはそう言った。自分は死んだのだから話しかけるな、と言う意味なのか、私の胸までが痛くなる一言だった。父親はさすがに黙ってしまった。この親子にも子が父を慕い、父親が子どもをあやしたそんな時期があったのだろう。一体、いつからその関係がこわれ、このような親子関係になってしまったのか。正常な親子関係でないことは確かです。よく、母親の父親に対する態度をそのまま子どもに受け継ぐという。もしそうなら、この子の父親への態度には母親のそれが影響しているのか。

いずれにしても、この関係は昨日今日にできたものではなく、日々くりかえされて徐々にこの形になったのだろうと想像できる。親に対する態度、礼儀などを子どもはどこで習得するのでしょうか、学校でしょうか、家庭でしょうか。私はそれこそ道場の大事な役目と認識しています。空手の実技は勿論のこと、その習得過程をとおして親・家族・親族の存在、目上に対する言葉使い、正しい挨拶を繰り返し教えていきます。稽古日には「今あることを両親に感謝し」と良い姿勢で大きく発声し「親から丈夫な体をいただいたのだから中身は自分で努力して入れていく」稽古の合間に、師範の話をしている生徒たちには電車に乗り込んできた親子のようなことは、無いものと信じています。みんな頑張り屋ですから。どうでしょうか。

範士八段
師範 佐々木清巳



難関を突破した長崎一真くん、お見事！
小さいころから、あこがれていた方向に
進路決定しました。
陸上自衛隊高等工学校に合格

養老の滝寒稽古 43回目
・公園内ラング
・棒術
・1,000本突き蹴り
昭和51年(1976年)から続けている
恒例行事、一般有志17名参加
31年1月14日 振休 養老の滝

